

# 湯久保で育ち、 都会で暮らす日々

―立ち止まって「生きる」を考えたい

丸山 理太郎



雪の下の集落の中心に学校がある

◆湯久保の暮らしには自然の表情があった

「子供の頃見慣れている風景が今でも変わらない事はいいものだ」と、良くも悪くもめまぐるしく変化を続ける街に移り住み、つくづく思っています。

私の故郷、湯久保での暮らしには四季折々の自然の表情がありました。春先には木陰に残った雪が解け、路の藁が顔を出し、夏も近づく

と、山百合の匂いが辺りを漂います。畑には青々とした葉が茂り、賑やかな虫の音が聞こえ、秋口には畑の作物の収穫も大詰めになり、祭りの練習が始まります。山が赤く色づき始めると、だんだんと寒くなり、落ち葉が辺りに積もり、遠くの川の音がはつきりと聞こえる位静かな冬が始まります。

四季をしつかりと体全体で感じていました。

◆山を駆けずり回った少年時代

学校へはバスで通い、バス停までは家を出て走れば10分以内につきますが、帰りは2kmの上り坂を歩くので、40分はかかります。

その頃サッカー少年だった僕等兄弟は、学校の下校途中や庭でボール蹴りをして楽しみました。大抵ボールが谷に落ちて行きます。すぐにそれを追いかけるが、急峻な傾斜の畑や森に入ってしまう。ボールを見失わないように駆け降り、ボールを捜して、またボールを抱えてとほとほと山を登る。ボールもたくさん無くなりました。

指笛で遠くの相手と合図をしたり、喉が渴けば沢の水を飲んだりしました。部活で遅くなり暗闇を帰る長い登り坂は、光の照らされている所しか見えないので、懐中電灯が無い方が視野も広く、晴れていれば月明かりで十分辺りが見渡せました。

◆伝統芸能で絆が培われた

湯久保には300年続く小さな祭りがあり、10歳にもなれば役者となって獅子舞を舞いまわります。演目は12夕子あり、早く上手になりたいと先輩から教わったものです。湯久保の暮らしは、おそらく今も当時と何も変わっていないでしょう。

◆上昇志向の生き方を問い直す

先日湯久保にて映画『降りてゆく生き方』の上映会を催しました。

湯久保で育ち、今は都心に出て暮らし、仕事をするなか、「心の豊かさとはなにか？」物や情報に恵まれた日常を豊かさだと思っていました。僕にとっては違う事に気が付き始めていた時に、こ

の映画に出  
合いますタ  
フの方々  
と出会いま  
した。

昨年3月  
には大震災  
によって大  
切な人や故  
郷を失った  
方が大勢い

ます。今もなお原子力発電所の  
周辺には近づけません、自然の脅



「生きる」を皆さんと共に考えたい

威を目の当たりにし、自  
然に生かされている事  
に気づき、人と人との繋  
がりの大切さを強く感  
じました。

今こそ上昇志向の生  
き方を問い直し、「降り  
てゆく生き方」を探る  
きっかけになればと思  
い上映会を行うこと  
にしました。

〔赤川修也撮影者からのメッセージ〕

— 今、日本は様々な問題を抱

### ◆上映にあたっての話し合いから

・コンビニやファストフードの食の消  
費（便利であるが大量のロス、合理化  
を求める流通、調理の過程で合成調味  
料・防腐剤等過剰な包装ビニール袋、  
自分もたばこ缶コーヒーを買って、  
出口をでてすぐ、店員が商品を入れて  
くれたビニール袋をコンビニのゴミ箱  
に捨てていた。

・市場には、日本中や世界各地から、四  
季を問わず品質も安定して運ばれてく  
る食材がある。

・故郷の野菜の素材に関して言えば、  
味はもちろん香りが全く違うし、それ  
ぞれの野菜に物語があり、素材によっ  
ては歴史もある。背景を知ること

わいもおいしさも違ってくる。

・毎日大量に入ってくる情報に加え  
て、知りたい情報を自分の頭で処理し  
きれなくなっているのじゃないか。

・料理レシピ、頼りすぎて自分の舌や  
感性を置き去りにしてしまう事もある。

・3月11日の震災を機に日本中が自らの  
生活を立ち止まって見つめ直している。

・人間は自然に生かされていて、科学の  
力（原子力を含め）を使ってより豊かな生  
活ができていて、今や科学の力を使わ  
ずにして生活は成り立たなくなってい  
ていくが、それをコントロールしきれ  
なくなったら科学に滅ぼされるかも。

・松原村湯久保での生活を通して生き  
る事の本質を考え、たくさんの人と時  
間を共有したい。

え、暗い大きな影に覆われてい  
ます。闇の中では、どんなに小  
さな口ウソク的光でも輝いて見  
えます。映画「降りてゆく生き  
方」の中に小さな希望の灯りを  
皆様方に見つけていただき、い  
つまでも心の中で輝き続けるこ  
とを、心から願っています。—

### ◆湯久保の場と時間と想いを共有

この映画を湯久保の暮らしを  
通して鑑賞し、戦後に豊かさを  
追い求め築かれた現代の暮らし

・先日統一地方選挙が松原村でもあつ  
た。私自身は都市部に住まいがあり、  
都市と村の選挙の温度差を感じた。私  
に限った事かも知れないが、市政がど  
うなっているのか、あまり情報がない  
し、興味も無い。先日投票した候補者  
が当選したかどうかも。

その後の活動も同じく、松原村の選  
挙はこれまでと違い、投票率が示すと  
おり熱い！

・スローライフはただの流行語で、多く  
の人はその言葉だけをファッションと  
して消費しているだけの気がする。

・この2年位の間、檜原で起きた僕の身  
の周りの出来事が全て「降りてゆく生  
き方」にリンクしていた気がする。映  
画上映の件、ぜひ話を進めていきたい。

を、少し立ち止まって、たくさん  
の人と語り合い、想いを共有でき  
たらと考え、赤川監督始めたたくさ  
んの方の協力を得て開催するに  
至りました。

地域の林家「東京チエーン  
ソーズ」代表の青木さんや、暮ら  
しの中で、代々「ずず大豆」や  
和玉蒟蒻の種を継いできた高橋  
さんの話を聴き、参加者の皆さん  
とこの空間で同じ時間を過ごせ  
て、とても有意義な会になったと  
思います。

私にとって、湯久保は家族の  
絆、地域の絆、そのなかで自分の  
生き方を見つめ直す事の出来る  
故郷となっています。



映画鑑賞の感想は？「意見交換」